彫刻芸術分野における世界的業績
および宮城県への貢献

彫刻家・画家

武藤　順九さん（69）

日本の美意識を探究

表面をたどると、いつの間にか裏面に達し、さらに進むと出発点に戻る「メビウスの輪」。不思議な造形に、東洋の「輪廻（りんね）転生」思想を込めた彫刻「風の環シリーズ」。古典技法を発展させた「ネオ・フレスコ画」で、独自の世界を表現した絵画「記憶の壁シリーズ」。平面と立体、二つの世界を自在に行き来する。

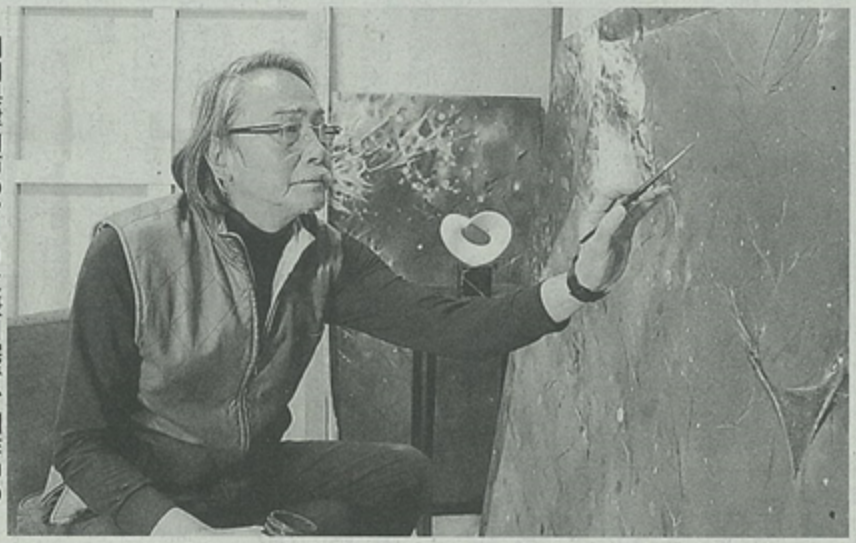
1997年、彫刻と絵画が、イタリア・ピエトラサンタ市の「ヴェルシリア賞国際グランプリ」を受賞した。彫刻はバチカンのローマ教皇公邸（夏の離宮）に、絵画はパリの国連教育科学文化機関（ユネスコ）本部に、それぞれ「永久設置」されている。

彫刻は、インド・ブッダガヤ、米ワイオミング州のデビルズタワーなど、「聖地」とされる場所にも設置を成し遂げた。「あらゆる宗教や民族、国家を超えて仕事をすることができた」と自負する。石巻市に2020年完成予定の石巻南浜津波復興祈念公園への作品展示も控える。

東京芸大を卒業後、西洋芸術の原点を見たいと、73年に渡欧。異文化の中で絶えずアイデンティティーを問われてきた。「自分自身を掘り下げる47年だった」と振り返る。

理想とする作品の姿に「日本刀」を重ねる。研ぎ澄まされた容姿の中に、美しさと豊かさが共存していると感じるからだ。日本人の自分だからこそできる形が目標。「作品の中に日本の美意識を感じてもらえたらうれしい」と話す。

むとう・じゅんきゅう　1950年仙台市生まれ。仙台二高、東京芸大美術学部卒。彫刻「風の環」は世界各地で恒久的に設置され、2011年には米ニューヨーク市で9・11慰霊碑を展示。東京の昭島・昭和の森に19年、武藤順九彫刻園が開設された。



岡山県津山市のアトリエ兼自宅で、制作中の絵画作品に手を入れる武藤さん